



△ 東京の物産館にあるゆず平井の里のブース

海ごみ勉強会

「串本からきれいに」

藤枝・鹿児島大准教授が講演

串本・みんなの海をまもろう会主催の「第2回海ごみ勉強会」が10日、串本町串本の県水産試験場であり、鹿児島大学水産学部准教授の藤枝繁さんが「美しい海を守りたい、今わたしたちにできること」をテーマに講演した。藤枝さんは、漂着ごみの実態を説明し「串本の海をきれいにすることが、東京や千葉、瀬戸内

海など他の地域の海をきれいにすることにつながる。串本から太平洋をきれいにしているという気持ちで取り組んで」と呼び掛けた。藤枝さんは、破片類や飲料用プラスチックボトル、ふたキャップ、生活雑貨などほとんどの漂着ごみが増えているのに対し、缶飲料のプルタブが減ったことを取り上げた。



漂着ごみの実態について講演する藤枝繁・鹿児島大学准教授（10日、串本町串本で）

これは、プルタブが缶から離れないように作られるようになった結果で「発生を根元から抑える」とごみはなくなる」と語った。また、微少な発泡スチロール破片やプラスチック破片のごみが深刻化していることや、海底にもごみが堆積したいせきしていることを、写真を見せながら伝えた。ごみの経路については、国内の場所によって、海流に乗って中国や韓国から来るものが目立つ地域と、国内から来るものが多い地域があることなどを研究結果を示しながら説明した。

「青」がある。ユズの皮を使い、上品な香りがする」とれたて柚子石けん」は、防腐剤や凝固剤などを使わず、釜炊

して学校まで、女子は学校を出て馬坂から潮岬青少年の家（同）（鹿光圭介（1年））



△ 藤枝准教授が潮岬の海岸で拾ったライター

以上が日本のものだったという。藤枝さんは講演前に、潮岬の海岸で108本のライター

分かった90本のうち61本が日本のものだったことも報告した。

小学校体育連盟が研究会

串本の潮岬小で 授業の向上目指し

東牟婁地方小学校体育連盟はこのほど、串本町の潮岬小学校で、保健体育科の授業研究会を開いた。新宮東牟婁の各校から参加した教諭が「体づくり運動」の授業を見て、良かった点や改善点など、質の向上に向けた熱心な意見交換をした。同連盟は、年間行事として11月に新宮市の王子小学校で授業研究会を開いており、今回が2回目の授業研究会で約20人の教諭が参加した。この日授業をしたのは、潮

岬小の尾原佑バランスを取ミカルに動く運動の狙いを力に感じた運動などを目丸めた棒を使った。

授業後の意論は「時間配ちが自分で課が徹底できず皆さんの意見生かしたい」授業を見たほ「安全面であつた」「子

